

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 26 年 2 月 7 日発行

第 35 号

発行人 校長 鈴木史良

私立高入試に挑む

—— 私立高校受験に精一杯の力で挑む3年生 ——

2月6日（木）、7日（金）は県内の私立高入学試験が行われました。本校3年生が受験した私立高は御西高、日大三島高、三島高、飛龍高、誠恵高、加藤学園高、暁秀高、桐陽高、沼津中央高の9校で、計33名の生徒が受験に臨みました。

初日の7日（木）は雪が舞う寒い朝でした。しかし交通機関などの混乱も心配するほどではなく、受験生たちはスムーズに受験会場に到着できました。

職員は3年部の先生方を中心に、万全を期して私立高入試に臨み、学習指導以外にも受験に関わる諸手続や面接指導、当日の準備物の確認等、きめ細やかな指導を重ねてきました。当日お忙しい中、受験生の引率にご協力くださった保護者の方々に感謝申し上げます。

<受験後の生徒たちの一言感想>

- 初めてのことばかりで緊張したけど、学校で練習したとおりに面接ができ、高校の校長先生にアピールできてよかったです。筆記テストも、今まで勉強してきた成果が出せたので安心しました。（御西高受験者）
- 筆記テストでは集中できたので、あまり緊張しませんでした。面接を待っている時にすごく緊張しましたが、面接室に入ったら面接官の先生方が気楽に話しかけてくれたので緊張がほぐれ、自分の考えや志望理由などをしっかり言うことができました。（飛龍高受検者）
- 入試問題は難しいのもあったけど、自分なりの成果を出しることができました。面接では、最近のニュースを尋ねられた時にかんでしまうことが多かったけれども、自分の言いたいことを面接官に伝えることができたので、よかったです。（飛龍高受検者）
- 入試問題はで、国語や数学はあまり難しくなかったのですが、英語のリスニングがとても速いスピードで読まれたので焦りました。しかし、ベストは尽くせました。面接官の先生が怖い人だったらと思うと、とても心配でしたが、優しい人だったので比較的落ち着いて面接をすることができました。練習通りとまではいきませんでした。筋道立てて話をし、集団面接では周りに流されず、自分の意見が言えたと思います。（暁秀高受験者）



緊張しながら切符自販機に向かう



早朝のJR裾野駅で

裾野市第31回英語日本語スピーチコンテスト

2月1日（土）の午後、市生涯学習センターで英語日本語スピーチコンテストが開催され、市内の中学生17名による英語スピーチと市内に在住する外国人による日本語のスピーチが行われました。本校代表として2年生3名が参加し、大勢の観衆が見守る中、堂々とした立派な発表ができました。本校でははじめに岩田歩さんが登場。題は“My Dream”（私の夢）で、フィリピンを訪れた時に文化や生活習慣の違いを感じ、将来は父親のように海外で活躍したいという夢をスピーチしました。次に登場したのが志村侑香さんです。題は“Leaning while Enjoying”（楽しみながら学ぶ）で、昨夏オーストラリアでのホームステイ経験から、現地校の子どもたちの積極的な授業態度に触発され、自ら授業態度を改めようとする決意をスピーチで見事に表しました。本校最後に登場したのは土屋葵さんでした。題は“My Lifelong Sport, Karate”（私の生涯スポーツ、空手）で、6歳から始めた空手を通して、生きていく上で大切なことを学び、海外に紹介したいという夢を熱い心で語りました。3人とも一所懸命さにあふれ、見事な発表ぶりでした。



学力に影響を与える生活習慣

今年度の学力調査結果と学力向上の助言を盛り込んだ報告書が県学力向上推進協議会長から県教育長に渡されたとの記事が教育新聞静岡版に出ていました。今年度は学力調査と学習状況の相関関係を分析したことが特徴で、それによると、「テレビ等の視聴は小中学生とも1時間より少ないと回答した児童生徒の平均正答率がいちばん高く、4時間以上視聴する児童生徒の正答率が最も低い。」という事実がデータによって明らかにされたそうです。この問題解決にはセルフマネジメントが役立ちます。テレビやDVDを見るときは、前もって自分がやらなければならないこと（宿題、提出物等）をやる時間を確保した上で、テレビを見る時間をつくり、その時間だけ見るという方法です。だらだら時間も考えずに見ているのはテレビ等に自分の時間を支配されていると同じこと。昨日配付した新たな取組、「グローバル・プラン・ノート」を使って、自分の時間は自分が支配するようにしましょう。

ふとうふくつ “不撓不屈” を実践した3年西島佑輝也君

昨年の立志式で西島君が高く掲げたこの言葉。四字熟語としての意味は、どんな苦勞や困難にもくじけないさまを言います。それから1年後、西島君は他の3年生たちより一足早く志望校の合格を果たしました。このことは立志式から1年間の西島君の充実ぶりを物語っています。しかし、本当の“不撓不屈”はこれからの人生に要求されるのです。西島君の目には一つの山を乗り越えた後、さらに高く険しい山が見えていることでしょう。

